

平成24年3月8日釜石市で東日本大震災支援全国ネットワーク「JCN現地会議in岩手」が開催されました。県内の復興支援関係者約80名が参加し、「これからの支援のための行政と民間の協働のカタチ」をテーマに、パネルディスカッションやグループ討議が行われました。



02 | 団体の、活動ノウハウを公開する  
-03 | **活動なう** [第3回]  
…「NPO法人  
乗馬とアニマルセラピーを考える会」  
理事長／山手 寛嗣 さん



04 | NPO・ボランティアで、頑張る人  
-05 | **情熱人!** [第3回]  
…「NPO法人インクルいわて」  
理事長／山屋 理恵 さん

06 | 団体の、活動パワーを紹介する  
-07 | **おらほのちから** [第3回]  
…「NPO法人くちない」  
事務局長／菅野 甚一 さん

07 | **お知らせ**  
…NPO活動交流センター  
岩手県社会福祉協議会  
ボランティア・市民活動センター

08 | **県からのお知らせ  
助成金情報**

□内特産  
はしほ芋  
コロッケと  
こしほ餃子



2012  
vol.4

2013年3月発行





▲動物愛護フェスティバルの様子



▲子供達は馬が大好き！



▲復興支援チャグチャグ馬コとのふれあい

習慣の改善 ○不安感や嫌悪感・恐怖心の軽減 ○やすらぎ・安心感を得る  
○ストレスの解消  
②身体的効果  
乗馬はバランスの取れた有酸素運動である。乗馬独特の振動やリズムは、跨っているだけで足や膝に負担を掛けずに運動効果を得ることが出来る。  
○全体的健康の増進 ○身体機能全般に対する刺激 ○ダイエット効果  
○バランス感覚の発達 ○腹筋や背筋を主とした筋力の向上 ○様々な運動機能の発達  
③乗馬運動の刺激効果  
○心拍数の増加 ○酸素消費量の増加。これにより、有酸素運動の促進が図られる。

④乗馬療法持続の効果  
○血液循環の促進 ○筋肉の発達促進  
○姿勢の矯正 ○平衡感覚及び移動感覚の発達 ○漸進的整理運動機能の向上

#### ■活動内容について

新しい公共支援事業（モデル事業）の採択を受け、ふれあい訪問の事業を実施している。被災地の幼稚園や保育園、老人ホーム等へ赴くと、乗馬や餌やりを通して、より一層動物との距離が縮まり、時には車椅子の老人が、自ら立ち上がり馬にふれられたり、皆さんが笑顔になり大喜びする姿を見ることができ、改めてホースセラピーの重要性が感じられる。施設内においては、毎週水曜日10時から11時30分まで、障がい者及び高齢者乗馬の、継続性が大切なホースセラピーを行っている。これは、障がいの程度を考慮し、乗馬者ごとの指導内容でカリキュラムを組んでいる。乗馬者の健康状態の確認と維持を常に行っており、乗馬者が自分でできる範囲はなるべく手は貸さず、乗馬者が馬をできるだけ自分で制御できるように環境を作っている。

# 馬っこパーク・いわて～乗馬を中心にアニマルセラピーと青少年育成や地域住民との交流を目指す～

「NPO法人 乗馬とアニマルセラピーを考える会」  
理事長 山手 寛嗣 さん



団体の、活動ノウハウを公開する  
**活動**  
**なう**  
[第3回]



▲馬っこパーク・いわて

#### 馬っこパーク・いわて

乗馬・ふれあい体験・ホースセラピーの実践・障がい者、生活保護、ニート者を支援する活動（作業所の提供、雇用による支援）、被災者支援等を行っている。年間利用者は3万人程度。

|                          |
|--------------------------|
| 開園時間                     |
| 9:00～16:30               |
| 入場料                      |
| 無料                       |
| 休館日                      |
| 毎週水曜日（障がい者乗馬に特化して実施するため） |



#### ■馬っこパーク・いわてとは

前身のポニースクール岩手は、平成元年4月、青少年健全育成、乗馬振興、スポーツ・レクリエーションの推進を目的に岩手県が開設し、青少年を中心に乗馬教室、ポニー教室、ポニーキャンプ等の事業を実施して来た。このポニースクール岩手が廃止されたことが決まったため、ここに残される沢山の馬や、立派な施設のことを考え、平成20年度に、急遽、NPO法人「乗馬とアニマルセラピーを考える会」を立ち上げ、ポニースクール岩手の借受人となり、名称を「馬っこパーク・いわて」と称して、同施設の維持管理とホースセラピーを始め、乗馬・福祉・観光・教育・馬事振興・地域活性化を柱にその拠点施設として多目的に活用している。

#### ■アニマルセラピーとは

当法人では、入園無料で施設を開放している。馬・山羊・ウサギとのふれあいを中心にアニマルセラピーを実践し、毎週水曜日には障がい者乗馬に加え高齢者の乗馬を実施している。  
心や体の治療としてのアニマルセラピーの中でも、馬はふれあうだけでなく、乗ることが出来る特別な動物で、それゆえ効果が高く、ドイツでは医療保険の適用対象になっている。幼児期に動物とのふれあいを体験することで、社会性、自

#### ■これまでの課題、問題点について

「馬っこパーク・いわて」の運営にあり、多くの方々にご来訪いただき、また各方面の皆様のご協力により「ホースセラピーの普及」、「地域との交流事業」、更には教育的利用を目的とした「ふれあい事業」を進めてきたが、施設の維持・管理、在厩している馬たちの餌代、人件費等、財政面で困難なことがある。乗馬体験の費用も利用者からは千円しかいただけておらず、不足分は当法人が補っている状況でもある。

年間を通じて、県内外からのボランティアの方々、就労支援のニートの方々等、沢山のの方々からの支援を頂き、スタッフ共々みんなで頑張っている。

この施設を県から借り受けている訳だが、残念ながら契約が単年契約となっている。ホースセラピーに使用される馬にしろ、購入してから1人前になるまで教育するには何年もかかってしまうため、なかなか設備投資ができない。教育期間中は餌代もかかる上、広大な敷地の施設の維持・管理には長期的な視野に立った計画が必要ではないかと思う。できることなら、3年、5年等、複数年に渡る契約を結んでいただければと思っている。

#### ■今後へ向けての抱負について

「馬っこパーク・いわて」は入園無料となっているので、暖かい季節にはお弁当持参で、ご家族・友人・ご近所をお誘



▲障がい者乗馬 タズナを執って馬の誘導

立性が育まれ他人に対する思いやりの心やいたわりの心が形成されるとされている。近年の児童の心の育成と被災地の現状を見ると、緊急に必要とされる事業であり、ホースセラピーの新しい展開が岩手で実現出来ることは、広く社会に展開される可能性を持っている。また、それは当法人が社会に役立つことができる最前線でもある。

実際、被災地に赴くと、ホースセラピーによって、お年寄りや子供達がどんどん笑顔になり元気になっていく姿を見ることが出来る。それによって、逆に我々が元気をもらっていることに気付かされる。

#### ■ホースセラピーの効果

①精神的効果  
馬は群れで行動する社会性を持ち、人に従順で心優しい動物だ。ただ草食動物としての性質上、怖がりな部分があるため馬の気持ちを考えて世話をする必要がある、そこではじめて、馬と気持ちが通い合う喜びが生まれる。

○自尊心や達成感を育む ○信頼感や対人関係・協調性の向上 ○日常生活

いし、気楽にピクニックに来ていただきたい。また、キャンプ場もあるので、そちらの方も是非ご利用いただきたい。

ホースセラピーを利用されている方々は県外からも沢山来られており、障がいを持つお子さんをお持ちの親御さんにとって、こちらの施設は大切な出会いの場となっており、社会の役に立っているのではと思っている。また、重度の障がいを持つお子さんが、乗馬することで笑顔になったり、体の不自由な方が、乗馬するために何とかして体を動かそうとされたり、自閉症のお子さんが積極性を持ち、自らの意志で馬に対して接するようになる等、ホースセラピー効果は確実にあると思っている。目が見えない方も笑顔で、「温かくてフワフワする、空気が絨毯に乗っているみたい。」と乗馬された感想を言っている。

これからますます、これだけの立派な施設を残していくためにも、当法人の様々な活動を単発で終わらせないように、継続性のある活動、多方面に渡る横のつながりを重視した宣伝を行って行きたい。スタッフは勿論、行政の方々、ボランティアの方々、当法人の会員さんや馬主さん等、沢山のの方々のご支援をいただきながら頑張っていきたい。

#### NPO法人 乗馬とアニマルセラピーを考える会

住所：〒020-0173  
岩手郡滝沢村滝沢字砂込389-18  
馬っこパーク・いわて内  
理事長 山手 寛嗣  
TEL：019-688-5290  
FAX：019-688-7262  
<http://umakkopark-iwate.org/>



# 家族のカタチにかかわらず、 誰もが生き生きと暮らしていける、 包摂された社会を――

「NPO法人インクルいわて」

理事長 山屋 理恵 さん



**山屋 理恵 さん** プロフィール  
インクルいわて理事長。2011年10月から現職。これまで消費者問題、多重債務、貧困問題など生活困窮者支援に取り組む。2012年2月から社会的包摂サポートセンター中央盛岡責任者・東北コーディネーターも兼ねる。

インクルいわては、2011年3月11日の東日本大震災後、さまざまな分野で活動していた女性たちが集まり、2011年10月に立ち上げました。母子家庭や父子家庭などの「ひとり親家族」支援を中心に、被災女性支援や子ども支援の活動を行っています。

私たち活動しているメンバーがひとり親家族の当事者なのかどうか聞かれることがあります。当事者かどうかは関係ありません。母子家庭の女性が働いて子どもを育てていくことが難しい社会というのは、どんな女性にとっても働くことが難しい社会です。父子家庭の男性が子育てのために職場で十分に認められない社会というのは、どんな男性にとっても子育てが楽しめない社会です。ひとり親家族が生きづらい社会は、どんな女性にとっても男性にとっても、仕事と家庭が両立できない社会であり、そんな状況を変えたいと思うメンバーが、震災後それぞれ行っていた支援活動のなかで、自然に集まりました。ひとり親家族の当事者であるうとなかろうと、誰でも関係する、自分たちにもかかわる、社会的な問題だと考えて、活動しています。

インクルいわてという名前は、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂／社会的包容）という理念をもとに名づけました。目指している将来像（ビジョン）は、家族のカタチにかかわらず、誰もが生き生きと暮らしていける、包摂された社会（インクルーシブ・ソサエティ）を実現することです。まずは、ひとり親家族の親と子が、楽しく、明るく、未来への可能性を広げ、健康で文化的な



●「インクルフェア」での一場面。  
カネボウ化粧品さんによるハンドマッサージ

自立した生活を送ることができるよう、当事者に寄りそいながら活動するとともに、地域社会にも働きかけ、ひとり親家族への理解と共感を深め、いわゆる差別や偏見などがなくなるよう活動していきたいと思っています。

## ●平成24年度の活動

○インクルフェア（6月15、16日）

私たちの活動の理念を知ってもらい、多くの方々と出会うために、インクルフェアと名づけたイベントを2日間行いました。母子家庭の使える制度セミナー、被災して盛岡に避難してきた女性たちの分かち合いの会、震災支援ボランティアによるランチ提供、子どものお楽しみ会、弁護士や相談員による相談会など、多くの方にご協力いただき、多くの方々と出会うことができました。また、カネボウ化粧品さんによるハンドマッサージコーナーも大好評でした。

○シンポジウム「ひとり親家族を支援する」

地域社会に働きかけ、社会的な認識を深める目的で、「ひとり親家族支援を考える」というシンポジウムを行いました。国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩さんによる「震災・貧困・社会的排除」の問題に関する講演のあと、県の児童家庭課にご協力をいただき「ひとり親家

日々の心配事などを話せてとっても癒やされました。」との感想を皆さんからいただきました。

○毎月1回の

○シンポジウム「ひとり親家族を支援する」

当事者同士だからこそその心配事、相談事を美味しいケーキをいただきながらみんなで分かち合っています。

○レンタルスーツの貸し出し

面接のためのリクルートスーツ、卒業、入学、七五三などに対応できるフォーマルスーツなどの貸し出しをしています。

## ●今後の事業

（ひとり親家族支援員特別講座）

2月に福島で行われた「ひとり親支援員特別講座」が、4月に盛岡で開催されます。（4月は宮城でも行ないます。今までなかった被災3県でのひとり親支援のネットワーク作りを目的としています。）

昨年8月にも開催し、「ぜひ、またやって下さい」とのリクエストを受けて、今年も以下の日程で開催致します。この事業は厚生労働省からも高い評価をいただいております。

是非とも、多くの方々に参加していただきたいと思います！予約受付中です！

日程：4月26日（金）、27日（土）

9時～16時50分

場所：プラザおでって3階 大会議室  
申し込み先：特定非営利活動法人インクルいわて 080-2887-3213

（インクルカフェ）

沿岸部での出張インクルカフェ、盛岡でのインクルカフェなどを行います。皆さんのお近くに伺うときは是非、お越し下さい！  
（インクルモデル報告会（仮称））

族の現状」についてお話を賜りました。その後、母子家庭・父子家庭の当事者団体のお話、医療現場からみたひとり親家族の問題など、造詣の深い方々からパネルディスカッション方式でお話をいただき、約100名の参加者とともにこの問題を考えました。

○ひとり親家族サポートセンター養成講座

フェーズⅠ（8月4、5日）

in 盛岡劇場・河内公民館

フェーズⅡ（8月11、12日）

in プラザおでって（盛岡市中野ノ通）

社会の理解を深め、より多くの方々と活動していただきたいという目的から、サポーター養成講座を開催しました。DV、離婚、就労、子育て、子ども、法律問題など、多方面の知識を得るために、多くの講師の方々にご協力をいただきました。岩手県全域から延べ300名の方々にご参加いただき、この問題に関する知識を得たというニーズの高さを感じました。私たちが普段活動できない地域からのご参加もあり、それぞれの地域で活動されてきた方々とながることができ、また参加者どうしの横のつながりができたことも大きな収穫でした。

○中間研修（8月31日まで）

育児等で長い間仕事から離れていた方や、仕事を始めたいけれどまだちょっと心配がある方などが、いきなり社会に出て仕事をすることは容易なことではありません。この事業は、そういった方々を対象に、社会に出て就労するまでの生活リズムを作ることを目的としています。社会に出て行くための支援活動が必要であると実感しているところです。まだ継続中ですが、この就労支援事業には大きな意味があると感じており、今年の6月頃にきちんと社会に向けて発信したいと思っています。

## 6月開催予定

24年度事業を中心に、インクルいわての考えるひとり親家族支援について、皆さんにご報告し、これからの支援のあり方をともに考えるきっかけとなればと考えています。

（おひさまくらぶ）

昨年同様、親も子も楽しめるイベントを企画していきますのでお楽しみに！

（レンタルスーツ）

就職活動用リクルートスーツ、卒業・入学・七五三などのためのセレモニースーツのレンタルを継続していきます。ぜひ、ご利用下さい。

## ●今後の豊富

誰もが一人でも子供と豊かに安心して暮らしていける社会を作らないと誰にとっても幸せな社会ではありません。人は誰でも、いつ、どんな状況になるかわかりません。家族のカタチにかかわらず、誰もが安心して幸せに子供を育てながら暮らせる社会を目指していかなければなりません。だからこそ、どんな状況になっても皆の生活を守る社会制度や、安心できる暮らしの在り方を考えていくことが、これからの社会に最も大切なことであり、インクルいわては、これまでも、これからも、その一役を担うために活動していきたくと考えています。

## 特定非営利活動法人 インクルいわて

住所：〒020-0024  
岩手県盛岡市菜園2丁目  
2番3号 豊岡菜園ビル5階  
理事長・山屋理恵  
TEL：080-2827-3213  
URL：http://includate.blog.fc2.com/

情熱人



NPO活動交流  
センターからの  
お知らせ運営ボランティア  
募集のお知らせ

アイーナ6階のNPO活動交流センターでは、簡単な作業に携わるボランティアさんを募集しております。

主に、新聞の切り抜きやNPOに関する記事を書き下ろしやボランティアに関する記事の作成、現在、ボランティアさんも数名活躍中です。主婦の方、勤務後の空いた時間をボランティアに充てている方、学生さん、休日の余暇を社会貢献に使ってみたい方：どんな方でもお待ちしております！

時間もみなさんの自由です。開館時間の間、お好きな時にお好きな時間でボランティアに関わることが可能ですのでご相談ください。

また、上記のお仕事以外でも私はこんなことができますよ！あんなことがやってみたい！というお申し出も大歓迎です。

● 浮牛城址の春

● (上)生活支援除雪 (下)ボランティア輸送

当法人では、口内は岩手でも有数の星空が綺麗に見られる町ということもあり、一戸町天文台長の吉田偉峰さんをゲストにお迎えし、親子で天体観測を行う「くちない星まつり」や親子で楽しめる「紙ひこうき飛ばし大会」など各種イベントを行っています。

## これまでの活動の課題

活動の柱であるボランティア輸送、「店こくちない」の運営及び特産品の開発と販売には人件費と運営資金が必要不可欠であるが、その支出を補う資金の確保に苦慮している。今は、いろいろな助成をみつけてカバーしているが、その企画提案書作成

どちらも予約制の有償サービスとなっているが、利用者からは、「本当にありがたい。」「無くなると思う。」「その声が多く、特にバス停から遠い高齢者の生活の足を確保するという目的において、「ボランティア輸送」は大いに役立っている。

利用者からの申し込み、ドライバーの手配等、一般的な事務を行う人の人件費や、現在のドライバーの高齢化によるドライバーの随時補充、まだまだボランティア輸送が住民に浸透していない（PR不足）等の問題点があるが、これからも皆さんに喜んでいただけるよう、継続して頑張っていく。

また、平成24年度から、市から受託した、

北上市口内町の良さを次世代に伝えるとともに、存在するさまざまな課題を住民自らが解決することにより、口内町が明るく豊かな生活の実現に寄与することを目的に、「NPO法人くちない」が設立された。

「NPO法人くちない」  
事務局長 菅野 基一 さん

伊達藩最北の  
藩境のまち  
”くちない”

● 菅野さん(左側)と佐藤さん(事務局)

**菅野 基一 さん** プロフィール  
平成18年4月北上市役所退職(当時55歳)  
後口内地区交流センター事務長を経て現在同センター長。平成21年3月「NPO法人くちない」を設立し事務局長。

## 組織が立ち上がった経緯

口内町は、高齢化率上昇(10年間で10%増)、人口の減少(10年間で15%減)、少子化(自然増・転入者が望めない)が進んでいる。この現状が進行すれば、農山村機能低下とコミュニティづくりの進展に支障をきたしてしまい、地域内で享受できる社会サービスの低下を招いてしまう。そこで、これらの問題を住民自らの手で解決するため、平成21年3月に「NPO法人くちない」を設立した。

現在は主に、町民ボランティア輸送、スクールバスの運行業務、「店こくちない」の運営、特産品の開発及び販売、生活支援除雪及び小修繕(高齢者宅等)等の活動を行っている。

## 町民ボランティアによる輸送の実施

高齢者等の交通手段の確保として、町民が待ち望んでいた「ボランティア輸送」を、平成22年9月27日より運行を始めた。

## 町内型運行(過疎地有償運送)

口内町民を対象とした、自宅から口内町内のバス停・各種施設までの送迎サービス。

## 福祉型運行(福祉有償運送)

口内町民で、認定基準を満たした人を対象とし、自宅から医療機関、金融機関等生活に必要な交通のサポート。市街地への送迎。

どちらも予約制の有償サービスとなっているが、利用者からは、「本当にありがたい。」「無くなると思う。」「その声が多く、特にバス停から遠い高齢者の生活の足を確保するという目的において、「ボランティア輸送」は大いに役立っている。

利用者からの申し込み、ドライバーの手配等、一般的な事務を行う人の人件費や、現在のドライバーの高齢化によるドライバーの随時補充、まだまだボランティア輸送が住民に浸透していない（PR不足）等の問題点があるが、これからも皆さんに喜んでいただけるよう、継続して頑張っていく。

また、平成24年度から、市から受託した、

小中学生を学校へと送迎する、スクールバスの運行業務も行っている。

## 町の活性化を図る「店こくちない」

平成23年4月にオープンした、高齢者等が日用品の買い物ができる「店こくちない」は、月曜日から金曜日の9時から16時まで営業しており、営業スタッフが、直接お客さんのニーズを聞いて商品の仕入れをしたり、宅配サービス、各個人商店等からの委託販売等を行っている。店内に25年1月に完成した厨房により、惣菜類の製造・販売も行っている。

ここは、ボランティア交通の受付業務や県交通「口内線」のバス停とボランティア交通の結節点となっている。そのため、待合所として多くの高齢者の方が利用され、皆さん楽しそうに笑顔で会話されており、町内の生活を支える場所、高齢者の新たなコミュニケーションとしても大きな役割を果たしている。



● 「店こくちない」で駐在さんを講師にドライバー研修会

また、107号線沿いにある、産直「あぐり夢くちない」に行くには遠いとおっしゃる方のために、ちよっとした野菜やりんご等果物の販売、10月からは、農家等で余った農産物を自ら収穫し、安く提供したり厨房での料理の材料として利用している。

## 特産品の開発及び販売

まち興しの一環として、口内産の「くしよ芋」を使った特産品北くちない「くしよ芋コロッケ・くしよ芋餃子」を開発し販売に力を入れ、一昨年からいわてB級ご当地グルメに参加している。

くしよ芋(五升芋)とは、当地区の昔からの呼び名で、一般的には「菊芋」といわれている。かつては、当地区でも漬物等に利用されていたが、あまりにも増殖力が強いので邪魔者、厄介者扱いされるようになった。

と実践に追われている状況である。また、いろいろなイベントを実施するには人手が足り、これからは特に若い力が必要なので、若い人の会員を増やすことが急務と考えている。

## 今後に向けての抱負

活動の主な事業は、町民の皆さんにとって日常生活に必要であること且つ、理解と期待があるので継続して行かなければならない。最大の課題である資金の確保は、くしよ芋を使用した、更なる特産品の開発と安定した販売、「と考え力を入れていきたい。将来は、助成金にはあまり頼らない財政力を持つようにしたい。

いわて車いすフレンズ  
事業の紹介

岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターでは、平成15年から「いわて車いすフレンズ」事業に取り組んでいます。

「いわて車いすフレンズ」とは、老人ホームや病院などで不要になった車いすを回収し、県内の工業高校生・大学生が点検・整備を行い、アジア諸国の車いすを必要としている方たちへ贈る事業です。

岩手県内では現在11校が参加しており、クラブ活動や授業の一環として車いすの修理に取り組んでいます。

さて、「車いす」を修理する活動に、なぜ「使用済切手・プリペイドカード・書き損じはがき」が必要なのでしょう？実は、集められた「使用済切手・プリペイドカード・書き損じはがき」は換金され、修理した車いすを空港や港まで運搬する際の費用になっているのです！

使用済切手やプリペイドカード、書き損じはがきをそのままゴミ箱へ捨てていませんか？捨てる前に：「切手」切手のまわりの余白を5ミリ残してカット！「プリペイドカード」図書カード、クオカード、バスカード、テレビカードなど。「書き損じはがき」年賀状でも構いません。そのまま捨てずに、岩手県社会福祉協議会 ボラン

● (上)口内特産くしよ芋コロッケとくしよ芋餃子  
(下)いわてB級ご当地グルメ出店

● 北くちない ぐしよ芋コロッケ・餃子 のメニュー写真

利用されなくなった。近年、このくしよ芋に多く含まれる「イヌリン」という成分が、血糖値を抑える、便秘に良いといわれ、健康食品としてクロミアップされてきている。

「くしよ芋コロッケ・餃子」を口内の特産品を目指して、平成23年5月頃から販売を始めたが、まだ日も浅く、PR不足もありまだまだ市内、県内に知られていない。1日も早く市内・県内外の多くの方々知って頂き、味わって頂けるように頑張っていく。商品の販売は、「店こくちない」と産直「あぐり夢くちない」で販売しており、食べて頂いたお客さん大変好評である。

## 観光名所としての「浮牛城」とイベント

「浮牛城」の由緒(いわれ)は、安倍貞任が築城の際、生き牛三頭を埋めて地鎮をしたことで命名されたといわれている。「浮牛城」は、高さ30メートルの小山で山城は東西200メートル・南北130メートルの平山城で、本丸・二の丸があり、周囲は水堀り・空堀り・土塁・矢来がめぐらされている。現在は、建物(御書院)やわ

当法人は、地域密着型NPOとして活動を行っており、口内町自治協議会と両輪である。まず定住者を確保するため、高齢者や若い方、特に子供達に郷土愛と誇りを持ってもらえるような住みよい町にしたいかなければならない。そのため、町民の方々と自治協議会とNPOが歩調を合わせて頑張っていく。

● NPO法人くちない  
〒028-8201  
岩手県北上市口内町新町67  
(口内地区交流センター内)  
TEL: 019-637-7592  
FAX: 019-637-7592  
http://www.kuchina.or.jp/index.html

ティア・市民活動センターまでご提供ください。  
「集めて送る」もボランティアのひとつです。みなさんのご協力をお願いします！



昨年10月に行われた技術講習会の様子

● お問い合わせ先  
岩手県社会福祉協議会  
ボランティア・市民活動センター  
TEL: 019-637-9711  
FAX: 019-637-7592  
すつばりボランティアいわて  
URL: http://iwate-volunteer.jp/  
いわて車いすフレンズ  
URL: http://www.iwate-shakyo.or.jp/friends/index.html



Info.

## 県からのお知らせ

認定NPO法人  
第1号が誕生  
しましたNPO法人成年後見センターもりおか  
(認定NPO法人)

盛岡市にあるNPO法人「成年後見センターもりおか」が、岩手県で初となる認定NPO法人に認定されました。

認定NPO法人制度は、財政基盤が脆弱なNPO法人への寄附を促すもので、岩手県の認定を受けることにより、寄附をする側と寄附を受ける側のNPO法人双方共に税制上のメリットが得られます。法改正により、仮認定制度も始まり、認定に向けてのステップアップが図られるようになりました。今年2月にはNPO法人「いわて子育てネット」が仮認定を受けています。

今後も認定NPO法人制度を太い活かし、復興支援や地域づくりなど、NPO活動を促進させましょう。

## ■成年後見センターもりおか

## 【認定NPO法人】

代表者…理事長 石橋 乙秀

住所…岩手県盛岡市大通一丁目1番16号

岩手教育会館6F

電話/FAX…019-6226-6112

法人設立目的…知的障がい者が生涯を通じて安心して豊かな生活が送られるよう支援していくため、成年後見事業を実施することを目的とする。

認定期間…平成24年12月25日～平成29年12月24日(5年間)

## ■いわて子育てネット

## 【仮認定NPO法人】

代表者…理事長 村井 軍一

住所…岩手県盛岡市大通二丁目

7番20号ウエダビル3F

電話…019-652-2910

FAX…019-652-9077

法人設立目的…子育て全般の事業を行い、子育て環境向上に寄与することを目的とする。

仮認定期間…平成25年2月28日～平成28年2月27日(3年間)

NPO法人いわて  
子育てネット  
(仮認定NPO法人)●認定NPO法人に関する  
相談窓口

岩手県政策地域部NPO・文化国際課

TEL:019-629-5199

FAX:019-629-5339

E-mail:FA0042@pref.iwate.jp

岩手県では、平成25年度に実施予定の県事業のうち、NPO等の皆様に活用いただくことが可能な事業をホームページに掲載しましたので、お知らせします。

岩手県ホームページ▶政策地域部▶NPO・文化国際課▶NPO・ボランティア▶「NPO等が活用可能な平成25年度の県事業について」に掲載

## 助成金情報



## 高環境財団

子どもたちの環境学習活動に対する助成事業

緑化や自然体験などの環境学習活動の実践を通じて、自然環境の保全と改善について地域の子供たちの意識向上を図ることを目的とする。

助成金額 50万円まで

## 対象事業

申請者が小学生以下の子供を対象に行う、緑化や自然体験などの環境保全に関する体験・学習活動。事業は平成25年7月1日から平成26年3月15日までの間に実施・完了するものであること。

## 対象団体

保育園、幼稚園、小学校、および子供会、町内会等の地域活動団体。

事業地が、原則として人口10万人以上の市区町村の都市計画法第7条に基づく市街化区域内であること。

申込締切日 2013年5月24日

## 詳細URL

[http://takahara-env.or.jp/bosyu/02\\_env\\_study.html](http://takahara-env.or.jp/bosyu/02_env_study.html)

## お問合せ

高環境財団

TEL:08-00074

東京都港区高輪3-25-271301

TEL:03-3449-8684

FAX:03-3449-2625

E-mail:mail@takahara-env.or.jp

<http://takahara-env.or.jp/index.html>

ヨネックススポーツ振興財団  
青少年スポーツの振興への助成

青少年スポーツの振興に関する諸般の事業の推進を図り、心身ともに健全な青少年を育成し、もって明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与することを目的とします。

## 助成金額

年度内に予定する一つの事業予算の2分の1で概ね百万円以内

## 対象事業

平成25年10月～平成26年3月に実施される青少年スポーツの振興に関する事業

## 対象団体

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的にを行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している、次の要件を満たした団体とします。【団体の要件】(1) スポーツ振興を主たる目的とする公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人又は一般財団法人(2) 上記以外の団体で、次の要件を備える団体(特定非営利活動法人等) 1. 定款、寄附行為またはそれらと同等の規約があること。 2. 団体の意志を決定し、執行する組織が確立していること。 3. 経理処理能力があり、監査する等の会計組織をもっていること。 4. 団体活動の本拠としての事務所をもっていること。

## 申込締切日

2013年6月30日

## 詳細URL

<http://www.yonex.co.jp/zaidan.html>

## お問合せ

公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団

TEL:03-3839-7195

FAX:03-3839-7196

E-mail:zaidan@yonex.co.jp

TEL:03-3839-7195

FAX:03-3839-7196

E-mail:zaidan@yonex.co.jp

TEL:03-3839-7195

FAX:03-3839-7196

E-mail:zaidan@yonex.co.jp

TEL:03-3839-7195

FAX:03-3839-7196

E-mail:zaidan@yonex.co.jp

TEL:03-3839-7195

FAX:03-3839-7196